

32 横浜市有道志水源林



1. 森林の状況

面積: 2,873ha

標高: 750 ~ 1,680m

森林の種類: 人工林33%天然林67%

主な樹種: スギ・ヒノキ・モミ・ツガ・ブナ・コナラ・ミズナラ等

林齢: 1~300年

制限林の指定:

土砂流出防備保安林 大正14年

水源かん養保安林 昭和26年

保健保安林 平成11年

2. 水源の状況

種類: 流水(道志川)

利用状況: 水道310,000戸(横浜市全体の約18%)

水源の流量: 172,800m³/日

3. 地域の概況

横浜市の水道は、我が国最初の近代水道として、明治20(1887)年10月17日に給水を開始し、明治30(1897)年に取水口を相模川の支流の道志川へ移し、以来、道志川は横浜水道の単独水源として重視されています。

横浜市では、水源を守るために大正5(1916)年5月に山梨県から恩賜県有林を有償で譲り受け、「横浜市有道志水源林」(以下、「道志水源林」)として管理経営を始めました。良質で安定した河川流量を維持し、横浜市民のライフラインである飲料水の確保を目的として、森林の有する多面的機能のうち、水源かん養機能の向上を進めています。

「道志水源林」は、山梨県南東部の南都留郡道志村に位置し、稜線部で神奈川県丹沢山地と接しています。道志川上流の本流を中心として、ほぼ馬蹄形に分布し、山腹中腹面から分水界までの範囲に広がっており、道志村の面積の36%を占めています。

道志村は降雨量が多く、また豊かな森林にも恵まれています。そこで育まれた道志川の水質は極めて良好であり、昔、横浜港に寄港した船乗りたちから「赤道を越えても腐らない水」と称賛された横浜水道の水は、正に道志川の水です。

また、水源地に訪れていただいた方々に、水源林の役割や自然環境の大切さなどを理解していただけるよう、水源林の見学地内に緑あふれる「森の教室」を設置しています。この森の教室では、水源かん養機能を体感する実験を交え、説明しています。

所在地: 山梨県南都留郡道志村

4. アクセス

鉄道: 富士急行線「都留市駅」下車、道志方面行きバス乗り換え「水道局前」下車、JR横浜線「橋本駅」下車、三ヶ木、月夜野経由都留市駅行きバス乗り換え「水道局前」下車

車: 中央高速「都留IC」から30分、中央高速「相模湖IC」から50分、または、東名高速「御殿場IC」から50分

問い合わせ先: 横浜市水道局浄水部水源林管理所 Tel 0554-52-2004